

令和7年度 第1回戸畑多職種連携研修会

◆日 時:令和7年9月11日(木) 18時30分～20時00分

◆場 所:戸畑区医師会館 4階講堂

◆講演内容:「認知症の人との関係性を見つめ直す～支援の中で見失わないもの～」

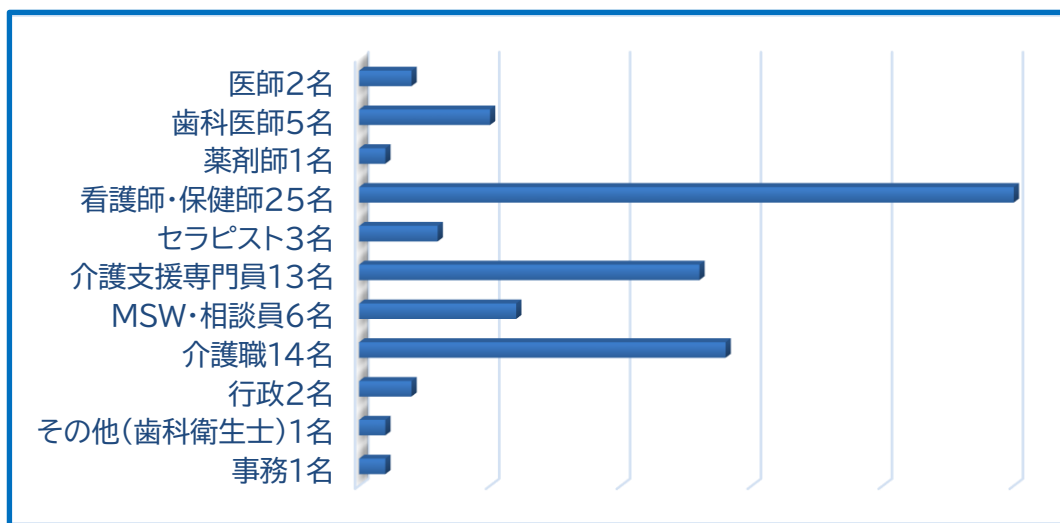
講師: 戸畑けんわ病院 認知症看護認定看護師

伊藤 修 先生

◆参加者:76名 (内訳:講師1名、参加者:72名、事務局:3名)

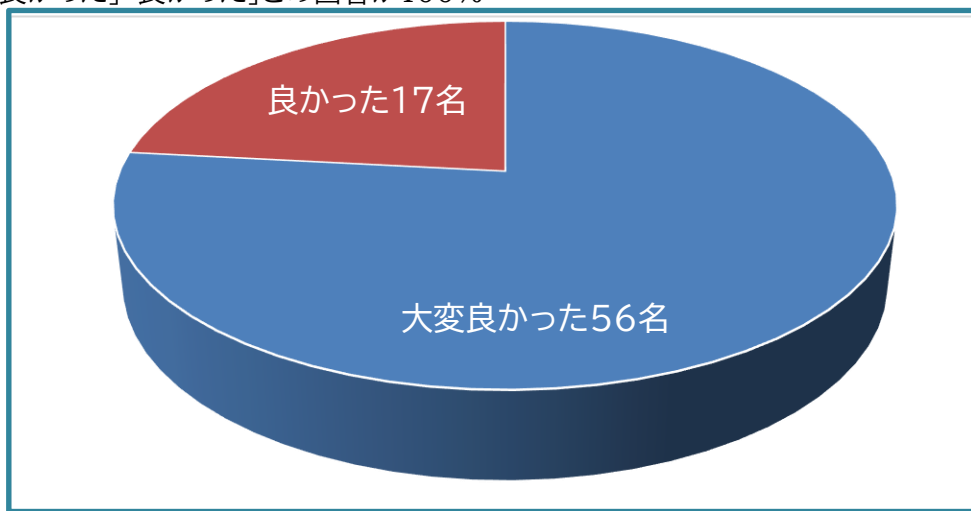
◆アンケート集計結果 n= 73 回収率97.3%

1、回答者の職種分布



2、講演会の内容について

「大変良かった」「良かった」との回答が100%



あまり参考にならない 0人
参考にならない 0人

3、印象に残ったことや感想、ご質問など

○非常にactiveで心に響く講演内容でした。

安心できて、「承認」「繋がり」「挑戦」がとても大切だと思いました

○「自立」「尊重」「原則」BPSDは改善できる

○「支援」を決めるためではなく、「問題点」を挙げることを中心としたグループワークは新鮮でした

○多職種の方々と意見交換をシェアすることで、様々な考え方を知ることができて良かった [意見多数](#)

○「関係性の障害」ということが腑に落ちた。「私たちの都合」で患者をケアしていることが多く、今日の講義を活かしていきたい

○改めて認知症とはどのような状態であり、どのようなところに気を付けて関わっていくのが良いのか知ることができた。実際働く中では業務に追われその人の意志を尊重した援助ができているのか？というところに目を向けれていないことに気づかされた

○認知症の方への接し方、承認、安心など意識したい

○職種によって意見は違い、見る立場、視点も異なるので、多職種連携が重要だと改めて気づけた。

○医療従事者が作った環境設定が本人の過ごしやすいものとは限らない。BPSDは心の表現

○安心の3つの要素について改めて考えることができた。安心して大事なのだと思った。その人らしさ、大事にしていきたいです

○カンファの際など、患者自身の意見が忘れられがちなのを改めて感じた

○初めに先生がアンケートをとったときの結果で「認知症の人の支援でどのように話したら分かってもらえるか」という質問が多かったと言われ、先生はそれを疑問に思われている様でした。でも講演を聞いて、なるほど！！「支援する立場がちゃんと話を聞くことをしないと」と改めて気づかされました。支援する側のスケジュール通りに人を動かしてはいけない！！

○医療行為だけではなく「倫理的に許されるか」という観点からの内容を聞いたこと

○認知症であっても、本人の意向をどの時点で聞くのが良いのか考えさせられました。多職種で話ができ、勉強になりました

○認知症の方の意思決定、家族の意向など、最期の迎え方について考える機会となった。

○その人らしさを考えたケア、関係性を大切にするケア、安心の3つの要素

○認知症のケアを勉強してきたが、これまで学んだり言われてきたことを本当の意味で理解できたように感じた

○認知症のある方の「知る権利」「選ぶ権利」 事例の方の意志が見えなかったこと

○傾聴と共感が大事であることがとても印象に残りました

○患者の意見をしっかりと確認することが大切

○認知症の方への対応について、再度考えることができました

○グループワークで他職種の方と認知症の方の意思の決定について話し合えたことが良かった

○認知症の方との関係性や安心感を得られるケアの仕方が分かった

○本人様の意向を十分に汲み取るケア側の意識の大切さを感じました

○自分の行動が認知症の人にとって「安心」できるものかと考えさせられた

○症状・BPSDは予防することが大切ということ。事例グループワークの過程でディスカッションできたこと。倫理的論点に多くのプロセス項目があることも勉強になりました

○安心感を持てただけのようにしていこうと思いました

○中核症状とBPSDがよくわかった。13枚目のスライドの絵がとても印象的で、認知の人と介護の人の立場の違い・すれ違いが分かった

4、研修の中で今後業務に活かせること

- 認知症の人と接する上でのテクニック、ためになりました。今後に活かしたいと思います。
- 終末期医療についての患者さんの意思について
- その人らしさという事を肝に銘じて人と接しようと思います
- 多職種連携の重要性
- BPSDは改善できる
- 「意思を聞く」「代理で決定する」ということをよく考えなければいけないと思い、そのような研修会に参加したいと思いました
- BPSDが出る前に予防することが大切であると知れた。まずは傾聴を心がけようと思いました
- 「その人らしさ」を大切にしたい
- 利用者さんと交わる中で、今回の皆さんの意見を参考にしていきたい
- 本人の意志やその人らしさを尊重した関り方を心掛けていきたい。そのために、笑顔やコミュニケーションなど小さなことからでも始められると知ったので心がけていきたいです
- 自分に余裕をもっていきたい
- 患者の立場に立って考えることを大切にしていきたい。
- 認知症の方とのかかわり方を改めて学ぶことができたので、今後に活かしていきたい
- 患者さんを理解する、患者さんの立場を尊重する、患者さん主体で考える
- 接し方、表情や言葉など関わり方を見直していこうと思いました
- 本人の意志を聞くことを忘れない
- 過干渉にならない、見守ってる感を出さず見守る
- 倫理的論点リスト
- BPSDは予防！！
- テキパキと働く看護師が信頼関係を作りにくい・・・その注意点が印象的で参考になった
- ペースを合わせて、先生に教えていただいた6つのテクニックを今後認知症の方と接する機会があれば用いていきたいと思います
- 限られた時間のなかで難しいですが、努力して信頼へつなげられればと思います
- その人らしさを中心にケアにあたる
- 「その人らしさ」というところが日々の対応の中でまだまだ重要視できていなかったと感じました。なかなかじっくりカンファレンスする時間や職種を交えて機会がないと感じるので、対応の振り返りを自分も行っていきたいです。ありがとうございました
- 資料にあった「接するうえでのテクニック」を、頭ではなく心にたたきこみます
- グループワークで出た意見などを意識して対応したいです
- コミュニケーションの取り方
- BPSDの考え方をリハに活かせると思います
- 多職種連携は患者様のために必要だと思いました
- 講義で学んだことを業務に活かしていきたいと思います
- 認知症の方と接するテクニックを改めて学ぶことができた。現場の中で承認やつながり、挑戦を意識して接していきたい
- 認知症の方へ、余裕を持ち対応できるようになりたいと思った
- 意思決定の場で学んだことを活かしていきたいとおもいます
- 認知症の方にもしっかりと意見を確認する大切さを活かします
- わかっているつもりの「傾聴・共感」「つながり」「挑戦」を日々の介護に活かしていきたい
- 「デスカンファ」で自身のケアで気づきがあればと思いました
- 今日のグループワークの中で出た意見を今後の支援に役立てていこうと思いました
- 治療の決定への様々な「委員会」「第三者の意見」など参考の大切さ！！話し合いの大切さ！！
- ご本人の意向や人となりを改めて考えてみようと思いました

- 治療方針を話し合う場の中で本人の意向が反映されているのか、その都度確認をしたいと思いました。
- 多職種連携の大切さ
- 病気として認知症を考えるのではなく、その人として考えていくようにしたい
- 認知症だからと言って、何も伝えないのではなく、本人の意見を確認することが大切だと感じた。
- 認知症の方とのコミュニケーション、どうやって安全に過ごせるか
- 認知症の方と接するために心がけることを学ぶことができたので、ペースを合わせ笑顔で対応し…と学んだことを活かしていきたい
- 本人らしさを大切にケアをしていきたい
- 「人生会議」を通して、ご本人の意向を確認する必要性。そのタイミングが難しいが、考えるきっかけとしたいと思いました
- BPSDは環境や対応でなくす、予防ができるため、今後職場で不安をなくし、傾聴・共感していきたい
- 認知症の方へのテクニック
- BPSDを活かせる事が出来ればと思います
- その人のための支援 私たちのペースに合わせない
- これからもご本人の思いを少しでも理解できるように努めたいです
- もっと訴えを傾聴していこうと思います
- 認知症の方と接する際の対応法を忙しい場面でも実施出来たら良いと思いました
- その人の声、ですかね
- グループワークの中で「ケースの振り返り」をすることの大切さに気付きました。実際はお亡くなりになった方や支援を終了した方への対応の振り返りは十分できてないと思うため
- 話に耳を傾けたり、コミュニケーションを積極的に行う
- 人を言い聞かせる前に、まず自分

【講師への声】

- ありがとうございました。勉強になりました。
- ほんとうに有意義でした。もっと先生のお話を聞きたいです
- 大変分かりやすかったです。ありがとうございます。
- とても分かりやすかったです。また講習をお願いしたいです
- 貴重なお話をありがとうございました